

『地には平和、御心に適う人に』 ルカの福音書2章1～15節 2018.12.9 アドベント第二主日礼拝説教より

『いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。』ルカの福音書 2 章 14 節

❶ **平和はどこに(誰に)**8-14 節…キリスト誕生の記事に、当時の世界を支配していたローマ皇帝の名前が記される(ルカ 2:1-2)。「アウグスト」とは「崇高な者」、「神の子・救い主」と呼ばれた。人は自分の栄光を求め、ついに自分が神となる！しかし、本当の神の子・救い主イエスは、神としての栄光を捨て、罪ある者を救うために身代わりに死なれた。互いの「敵意」を廃棄し、神と人、人と人との和解・平和を実現された！あれから2000年…ローマ帝国は姿を消し、あの日、世界の片隅で、ひっそりと生まれたイエスの誕生は、全世界の喜びとなり、贖いの十字架は世界中に掲げられている。「平和は御心に適う人々に」の、『御心にかなう』とは、『(神に)喜ばれ／気に入られる』の意。かつての私たちは、神に喜ばれるどころか敵だった(エペソ 2:3)。しかしその「敵」が、神の豊かな憐れみを知り、大きな愛と恵みを信じて、神の好意に与る者へと変えられた(2:4-8)！信じた者は神と笑顔で向き合い、いつでも何でも神に申し上げ、慰めと平安をいただく(ピリピ 4:6-7)。
★このアドベント、『イエス様、私の心に来て下さい！私に本当の平和を下さり、関係の壊れたあの人との関係の回復を』と祈りたい！

❷ **平和をどこに(誰に)マタイ 5:9**…「平和をつくる」とは、「(平和を)届ける／維持する」の意。イエスの平和を心に宿す者は、あらゆる関係に平和をもたらし、あらゆる不安の中で、平安を守る者となる！『クリスマスうつ』との言葉がある。周囲が楽しそうであればあるほど孤独が身にしみる。それでも毎年クリスマスがやってくる！それは、平和の君が世に来られ、あなたの闇を消し、神の愛はすぐ側だと知らせるため！神の子(クリスチャン)は、その温もりを届ける！「100歳の美しい脳」の本に、アルツハイマー病を発症しても症状が現れない人の共通点が記される。「小さい頃の良い言葉のやりとり」「生きることは素晴らしいと思える育ち方」「祈り、黙想し、信仰心」「信頼できる人間関係」。後半の2つは、今、誰もが実行できる！神を信じ、その恵みに感謝して祈る、そして、人とのつながりを大切にして関わり、隣人の弱さに寄り添い、慰めを祈る！そうした関係に生きるお互いは、どんなに脳が萎縮しても、魂は病むことなく、健全な生涯を全うする。

★神との平和を頂き、愛されて安心し、隣人に寄り添う、「御心に適う」クリスマスとしたい！